

●第4章

結の集落をみつめて

かつて日本の多くの地域には、田植えや稲刈り、屋根替えなど、多くの労働力が必要な作業を行う場合に、集落の住民総出で助け合い、人手を貸し合^ひって生活の営みを維持する「結」という制度が存在していました。

しかし今、地域のつながりは薄れ、結は失われつつあります。

近年、人口の半数以上が65歳以上の高齢者であり、共同体としての機能を維持することが限界に達した集落が、「限界集落」を呼ばれています。けれども、当地域の多くには今も結の精神が残り、人々は互いに支え合いながら、明るく、たくましく、この時を生きています。

結の集落に暮らす人々の姿。そこには、今の時代が忘れかけてしまった大切な何かが映し出されているのかもしれない。





大瀬の南東部、御祓川の上流に位置する池田地区。37世帯・65人の住民のうち65歳以上の人が78.5%を占め、町内で最も高齢化率が高い自治会となっています（平成21年4月1日現在）。

同地区は、明治時代以前は地名を「^{まほの}炎野」といいました。しかし当時火災が頻発していたことから改名することとし、消火するための水にちなんで、ため池を作り田を広げようと、「池田」という名が付けられました。それ以来、野山を切り開き、池を作り、開田

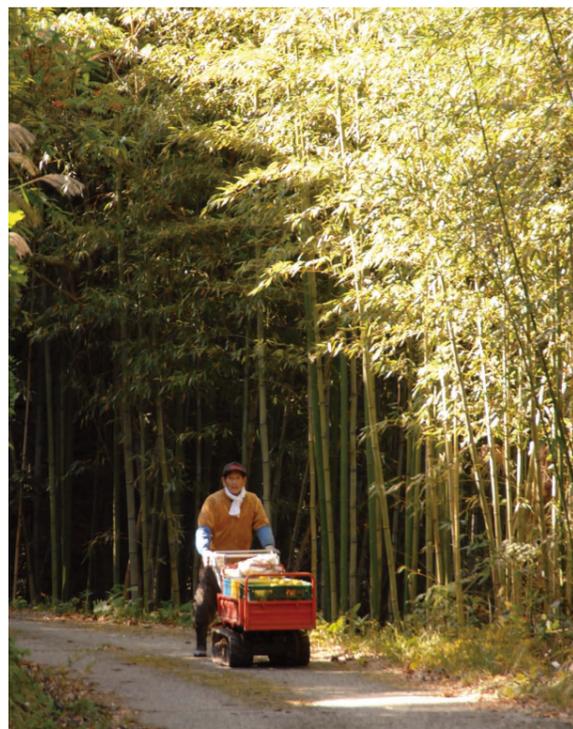


「若いもんはおらんになって、暮らしも不便になってしまった。それでも、住み慣れたこの場所が一番」

するために住民は懸命に働いたといえます。今も地域内には20カ所以上のため池が残り、人々は先人に深い感謝の念を持ち続けています。

上永兼松さん・ミサヲさん夫妻は、そんな池田地区で農業を営んでいます。兼松さんは84歳、ミサヲさんは76歳。日当たりの良い山の斜面に立てた一軒家で、互いにいたわり合いながら仲良く暮らしています。

現在は、主にユズと栗を栽培し、出荷。「ユズはあんまり手がいらんけん」



と話すミサヲさん。それでも収穫時期は二人で朝から山へ出かけ、ミサヲさんが摘み取った実をトッパカーに積んで、兼松さんが家まで往復。午後からは、日が暮れるまで選別作業を続けます。傷が付いて売り物にならない実は、ミサヲさんが一個ずつ根気よく果汁を搾ってビン詰めにし、松山市に住む親類などに分けているそう。「姪が喜んで取りにくるんよ」とうれしそうに話します。

そのほかにも、畑では大根、キャベツ、タマネギ、ジャガイモなどの野菜や、イチゴ、キウイフルーツなどの果物を栽培。食べきれない野菜などは漬物にし、毎日の食卓へ並べます。畑の脇には鶏小屋があり、毎朝新鮮な卵を産んでくれるとか。「何でもあるけんな、食べるには全然困らんよ」と、ミサヲさんは少し誇らしげに胸を張ります。ただ「田んぼはあと何年続けられるか分からん」とポツリ。田んぼは山のふもとにあり、これまではバイクで出かけていたものの、昨年、二度転倒してしまい、息子さんから運転を止められたそうです。

お子さんたちはそれぞれ独立して町外に居を構え、週末ごとに農作業などを手伝い帰ってくるとのこと。高齢の両親を心配して同居を進められるものの「街に住んだら、知つとる人もおらんし、畑もないし、何してええか分からん」と言うミサヲさん。「元気なうちには、ここで住むのがええ」と明るく語る表情が、印象に残りました。

❖ 集落の状況

日本では、歴史的に地縁的な集落が形成され、住民の生活や生産活動はこの集落を基礎的な単位として営まれてきました。また集落単位の活動を通じて、国土や自然環境の保全、美しい景観の形成、伝統文化の継承などさまざまな機能が確保されています。

しかし現在、人口の減少および高齢化が著しく進行し、集落としての機能を保持することが困難な集落の数が急激に拡大しています。国土交通省が平成18年度に実施した「国土形成計画策定のための集落の状況に関する現況把握調査」（国土交通省・総務省）によると、全国の過疎地域にある過疎集落約62,000のうち、今後10年以内に消滅またはいずれ消滅の可能性のある集落は約2,600となっています。（下表）

■ 高齢者割合別・消滅の可能性のある集落数

	10年以内に消滅	いずれ消滅	存続	無回答	計
高齢者割合50%以上	306 3.9%	1,285 16.3%	5,453 69.2%	834 10.6%	7,878
高齢者割合50%未満	89 0.2%	806 1.5%	45,680 87.7%	5,529 10.6%	52,104
不明	28 1.2%	129 5.6%	1,251 54.6%	883 38.5%	2,291
全体	423 0.7%	2,220 3.6%	52,384 84.1%	7,246 11.6%	62,273

さらに国内では、今後も人口減少・高齢化の進行が予測されており、集落の消滅によって地域住民の生活が維持できなくなるとともに、農地や森林などが荒廃し、貴重な自然環境や資源が失われてしまうことが懸念されています。

内子町では平成21年、町内の集落の現状を把握し課題に対応するため、「限界集落实態調査検討委員会」を設立し、山間部を中心に聞き取り調査を実施しました。その結果、独居や高齢者のみの世帯が多く、日常生活を送る上でさまざまな問題を抱えていることが浮き彫りとなりました。

農地や山林の荒廃は、農林業の振興だけでなく、水源の涵養や土砂災害の防止など公益的な視点から、市街地の住民も巻き込んだ取り組みが必要です。また当該集落の住民にとって最も身近で重要な問題は、交通手段の確保であることも分かりました。自主防災組織の充実や、救急医療体制の整備、緊急通報体制の強化など、多くの課題があります。

誰もが住み慣れた愛着ある地域でいつまでも安心して暮らせるように、結の集落を守り、再生へ導く取り組みが求められています。

⑥ 社会福祉協議会が行うデイサービスは月に2回。行き帰りのバスの中でも、ご近所同士にぎやかなおしゃべりが続く。⑦ 毎回、血圧測定や健康相談が行われ、体調を確認。通院も不便なため、健康には人一倍気を遣う



日々の生活の中で困っていることを尋ねると、「やっぱり交通が不便になったなあ」との答え。以前は同地区にも小学校があり、定期バス路線が通っていましたが、平成元年に小学校が閉校。その後しばらく運行されていた福祉バスも無くなり、今は月に2回、家の近くまで迎えに来てくれるデイサービスを利用して、通院や買い物などの用事を済ませているそうです。普段は、ご近所といっても谷を挟んだ向かいの山などにあるため気軽に行き来することができず、一緒に出かけるデイサービスの日を心待ちにしている様子。カレンダールには忘れてしまわなように〇印が付けられていました。

同地区では、人数が少ないこともあり住民同士が互いを気遣い合って暮らしています。地域の会合がある日は、頼まなくても誰かが迎えに来てくれるとのこと。自治会で開く敬老会も、「自分が準備して席に着くんよ」と笑いながらも、協力して今は何とか実施できていると言います。しかし、祭りなどの行事はすでに開催が困難な状況です。同地区にある大木「芋種桜」の元で毎年開いていた祭りも、来年は休止が検討されています。

庭先から、向かいの山に点々と並ぶ家を眺めながら、「あの家も、その向こうの家も、もう空き家になったんよ。もう人が住んでる家の方が少なくなった」と寂しそうに話すミサヲさん。「仕事もないし、不便なし、若者はここには住めまい。でも、わしらはやっぱり、住める間はここで暮らしたい」。そう何度も繰り返し返していました。

限界集落实態調査の結果概要

内子町では、全行政区153区のうち、人口の50%以上が65歳以上の高齢者である25行政区を対象に実態調査を行いました。調査は143世帯・171人、調査世帯率は24.60%です。

町全体では、総人口19,601人のうち、65歳以上の人口が6,480人（男性2,599人、女性3,881人）。そのうち、一人暮らしの高齢者が870人となっています（平成21年4月1日現在）。

聞き取り調査では、困っていることとして「買い物や通院が不便」「ゴミの収集場所までが遠い」「世帯数の減少で1世帯当たりの道路整備や神社の維持費などの負担が増えた」など、多くの人が日常生活に関することを上げました。また「農林業の衰退などによって地域では生計が成り立たず、後継者の増えようがない」という声も多数ありました。町外に住む身内の支援を受けながら生活している人が多く、見寄りの無い人ほど深刻な状況となっていることがうかがえました。

■ 調査対象行政区の人口状況等

（平成22年11月1日現在）

行政区	全 体				65歳以上				高齢化率(%)
	世帯数	男	女	人口	世帯数	男	女	人口	
山鳥坂	6	4	7	11	6	4	7	11	100
池田2	13	10	12	22	11	7	11	18	81.82
池田1	23	20	22	42	21	14	19	33	78.57
下白杵	15	15	19	34	17	12	12	24	70.59
北浦	14	16	12	28	13	10	9	19	67.86
白杵中	19	19	21	40	22	14	13	27	67.5
東組	24	26	28	54	21	15	21	36	66.67
中田渡4	11	8	14	22	11	4	10	14	63.64
源台	21	19	22	41	17	10	15	25	60.98
上川上	31	27	31	58	22	14	21	35	60.34
上日ノ地	27	31	32	63	24	17	21	38	60.32
野村	23	26	25	51	20	11	18	29	56.86
乙影山	21	23	21	44	16	11	14	25	56.82
大平	18	13	21	34	14	5	14	19	55.88
上川西	31	33	39	72	26	19	20	39	54.17
北深	20	20	17	37	14	9	11	20	54.05
上田渡谷	17	20	19	39	12	10	11	21	53.85
熊ノ滝	28	35	36	71	23	17	21	38	53.52
祝谷	19	14	22	36	15	6	13	19	52.78
石畳7	61	66	73	139	46	29	44	73	52.52
豊秋町	18	20	24	44	15	11	12	23	52.27
中田渡1	35	29	40	69	25	12	23	35	50.72
長田	62	66	78	144	47	29	44	73	50.69
道徳	13	13	17	30	10	5	10	15	50
日野泉	10	11	11	22	7	5	6	11	50
計	580	584	663	1247	475	300	420	720	



「どっちかが一人になってしまったら息子がおる所に行かないけんかな。それまでは、ここで二人で住むのがええ」

